

動しました。あの豪傑なばあちゃんに涙ながらに感動していましたから。それから、ボーリングが盛んに行われ、長島の水文化が変わったと思います。

◆中橋教育長

私の出身は獅子島の幣串ですが、私は幣串を出て県内を転々としていました。帰ってくるたびに幣串も変わって、今では当時の面影はゼロに近いと思います。その点から水元さんは、お話ししたいことがたくさんあると思います。がいかがでしょうか。

◆水元氏

私が公民館長をした昭和42年当時、獅子島は水産業が盛んでしたが、台風の時、避難する港も無く、石垣で造った港があっただけで、船を繋ぐ岸壁も無かったものです。どうしても港を整備しなければいけないということで、県庁に度々、自費でお願いに行っていました。

長島の所得を増やすために

は、どうするかということ、まず、交通網の整備を行い、それから、農地整備にがむしゃらに取り組みました。当時は、するしかなかったです。

◆早崎氏

私は昭和8年生まれで、戦争が始まったのが3年生のとき。終わったのが6年生のときでした。その後、学校改革により鷹巣中学校に通学することになりました。1年間は定期船等が無く、葛輪の家から学校まで急いで3時間半かかっていました。

卒業後は養豚業を営んでおり、出荷の際に道が悪かったために、豚が死んでしまったこともありました。道路と橋の整備が一番必要であったと思います。

◆竹本さん

先日、田上小学校の校長先生の講話を聞く機会がありました。その中に「年を重ねるごとに美しく」という言葉がありました。非常に大切なこ

とだと感じました。今、子どもたちが非行に走ったりしていますが「行きたい学校、帰りたい家庭、住みたい地域」ということも言われました。今後の、子ども教育の参考になるのではと思いましたので、紹介します。

◆中村さん

私は、長島生まれではなく、長島に來たのが昭和26年でした。当時の長島は本当に田舎でしたが、年々、目覚ましく発達していき、それに伴い子どもたちへの教育の仕方も変わっていきました。

私は、郷土料理の良さを勉強しつつ、それを子どもたちにも伝えたいと思っています。しかし、郷土料理を知っている方は、90歳前後の方々と、私たちは中間のパイプ役です。集落にも郷土料理をご存知の方が少なくなっています。今のうちに、昔の良さ、郷土料理を聞いておくことが必要だと感じています。長島の地産地消と言えば、ワカメや昆布類、今では、じゃがい

も等があると思います。「イギリス」も昔独特の料理だと思っています。

◆池田氏

私が、後世に伝えなければいけないと思っていることは、山門野地区で水田の基盤整備を計画した際に、当初、98%程度は工事に同意をもらえましたが、数人の方々が、なかなか同意がもらえずに何度も家を訪問し、説得をしました。それでも同意がもらえませんでした。役員会議を開き不同意の方の分は、そのままにしておこうという意見もありましたが、後世の子どもたちのためにも何とか説得をしようということになり、説得を続け、ようやく100%の同意を得た経緯があります。やはり10年、20年後の子どもたちのことを考えて物事は進めなければいけないと感じるところでした。

◆児玉氏

私は、大正13年生まれで今年83歳になります。現在、史

談会という会に入って、子どもたちに何を言い伝えていくのか、今の行政にどういう提案をすればいいのか、将来どうあるべきか、ということをも勉強中です。

旧長島町では、昭和49年3月に郷土史ができていますが、この郷土史も訂正、追加等をしなくてはならないと思います。また、広報ながしまの縮刷版もできていますので、郷土史を作る際の資料になるのではないのでしょうか。新しい長島町になったのだから、新しい感覚で郷土史を作っていたいただきたい。やがて、子どもたちの時代になったときに長島がどうなるのか、将来の長島の在り方について、意見を積み上げて行政に反映していただきたいと思っています。今後、このような会を続けていただき、資料となるような記録を残し、子どもたちに伝えていただきたいと思っています。

◆平下氏

長島の先人たちは、屈辱を